

市長から 市民のみなさんへ 28



山陽小野田市長 白井 博文

山陽小野田式 教育改革～ 「生活改善・学力向上プロジェクト」について

梅雨とは思えないような暑い毎日が続いていますが、照りつける太陽に負けにくいくらい熱いのが、市内小学校で1学期からはじまっている「生活改善・学力向上プロジェクト」ではないでしょうか。今回はその概要について4ページから特集しましたので、是非、ご覧になっていただきたいと思います。

このプロジェクトの成果としては、「学力向上」という点がクローズアップされがちですが、その一面だけではなく「生活改善」の取組みと連動させることにより、子どもみんながもつ無限の可能性が開かれ、そこから多くの人材、また将来を担う市民が生まれることを市長として、大いに期待しているところです。

陰山先生はじめ、この取組みにたくさんの方々のご協力をいただいていることについて、厚くお礼申し上げます。そして、ただでさえ多忙な毎日であるにもかかわらず、直接、子どもと向き合い、教室で試行錯誤しながらこのプロジェクトに奮闘している先生方に対しても、感謝の言葉は尽きません。近いうちに、その成果が目に見える形で現われてくることでしょう。その日が来ることを信じ、これからも児童・生徒のご指導をよろしくお願いします。

また、保護者のみなさんへも市長からこのプロジェクトに対するご理解、ご協力をお願いしたいと思います。全国にも例のないこの取組みですが、陰山先生、教育委員会、そして学校が一体となり、本気になって挑戦しているところです。立場は違えど、「子どもの能力が伸びるなら」という想いにはかわりはありません。ただし、「生活改善」の部分については家庭がその責を負う部分が多くなります。子どもの習慣というものを変えるのは、なかなか難しいことですが、「ストップ!! ザ テレビ・ゲーム・インターネット」のスローガンのもと、ぜひとも「早寝・早起き・朝ごはん」の実践をおこなっていただければと思うのです。

現在の社会のもつ閉塞感は、ややもすると子どもにも悪影響を与えがちです。しかし、こんな時代だから

こそ、子どもが明るい未来を切り開いていけるかどうかは、大人次第であるという自覚を多くの方にもっていただきたいと願わずにはいられないのです。

病院事業将来構想検討委員会から 答申をいただきました

6月16日、病院事業将来構想検討委員会から答申をいただきました。10か月もの長き間にわたって、議論を積み重ねていただいた委員のみなさんには、心から感謝申し上げます。

この委員会は、「新市において検討委員会を設置し、統廃合を含め、機能分担や経営形態について速やかに調査、検討を行う」という合併時の協議事項に基づいて設置されたものです。山陽市民病院の多額の不良債務の問題が背景にあったのはもちろんのことですが、それとともに人口に比べ、大病院が数多く存在する宇部小野田地域において、公立病院の果たすべき役割、使命は何かという課題についても協議していただき、現状の分析を踏まえた改善策を示していただきました。(3ページをご参照ください)

あわせて、抜本的な経営改革をすすめるため、現在、私がおの任にある病院事業の最高責任者に、業務に精通した人(=事業管理者)を置くこと、新病院の建設構想を検討すること、といった点についても答申をいただきました。新病院の建設については、財政的な裏付けを含め、実現していくには乗り越えていかなければならないハードルが数多くあり、一段一段、石段を上り下りすることにはなるでしょうが、前向きに検討をはじめたいと考えています。

委員会の砂川委員長より、答申書提出の際に「これ(=答申)は出発点にすぎません。これからが”正念場”という認識をもち、委員全員で市長を支えていきたい。」という力強いお言葉をいただきました。委員みなさんの労苦にお応えするためにも、この重い重い課題に逃げ出すことなく、真正面から取り組んでいく決意を新たにしているところです。

**7・8月の
対話の日**

7月27日(木) 山川公会堂
8月24日(木) セメント町第一自治会館
※19:00から 1時間30分程度です